

事業所名 十字園グループホーム
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年10月25日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 社会福祉法人生活指導員、介護事業所管理者
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、ホームヘルパー2級、社会福祉主事、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
B:現職 介護支援専門員
資格・経験 ホームヘルパー2級、介護福祉士、介護支援専門員、認知症ケア専門士

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・JR美作落合駅から程近い、里山に囲まれた丘陵地にホームはある。周りには田園が広がり、四季の移り変わりが間近に感じられる風光明媚な場所に位置している。
- ・法人は、長年落合地域の社会福祉に貢献してきており、各地に高齢者福祉事業を展開している。ホームがある「ふれあいタウン十字園」は、高齢者介護事業の総合的複合施設であり、その特性・利点を生かした協力体制が整っている。
- ・地域社会の疾病予防に力を注ぎ、保険・福祉・医療のネットワーク作りを目指している近くの総合病院と緊密な医療提携があり、毎週医師がホームを訪れ、入居者の様子を診てくれている。また、平素から、入居者の健康維持・管理の指導や相談に乗ってもらっている。緊急時には、直ちに対応してもらえ、入居者・家族共に安心が得られる。
- ・管理者・職員は、入居者の人格を尊重した対応を心がけ、常に穏やかに入居者と接している。入居者の表情も明るく、ここでの生活を楽しんでいる様子がうかがえる。
- ・管理者は、社会福祉への見識が高く、介護事業の運営・管理について積極的に取り組んでいる。職員は全員常勤で、退職者はほとんどいない。OJTを導入して認知症への専門的ケアの訓練を行い、介護現場で実践している。
- ・真庭市が主催する、「認知症キャラバンメイト養成研修」に職員2名が参加し、認知症サポーター5000人を目指す真庭市の高齢者福祉に積極的に協力している。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

・特段に改善すべきと指摘する点は無い。
真庭市を始め、地域より期待された意義を理念や運営方針の中で具現化し、運営推進会議のメンバーと共に地域福祉の中核となり、過疎化し、高齢化する東北中山間地の生活安定と充実した社会生活の推進に益々貢献されることを期待する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) ・季節を肌で触れ、自然を五感で感じられる恵まれた立地条件を活用し、加齢や病気などによって心身の状態が悪化しないよう、入居者が少しでも長く今の生活が続けられるように支援していくことを目標にしている。 ・入居者一人ひとりの尊厳を大切に、穏やかに明るい笑顔を忘れず、入居者一人ひとりと向き合い、信頼関係を築きながら協働してホーム生活が送れるよう取り組んでいる。 ・地域との連携・ふれあいを大切に、入居者が以前と変わらぬ環境で安心して生活できるよう、その人らしい暮らしの継続を目指している。 ・入居者一人ひとりが、活気のある生き生きとした表情や、それぞれの意思で活動できるその人らしい暮らしの実現を目指している。 ・質の高い介護サービスが提供できるよう、OJTを通じて知識の向上に努め、職員それぞれが質の高いサービスを提供できるよう、職員の研修・学習を支援し、資格取得も勧めている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) ・以前に暮らしていた場と変わらぬ環境作りを心がけている。また、入居者と家族との繋がりを大切にしながら、入居者が安心して暮らせる場の提供に取り組んでいる。 ・入居者の自主性を尊重し、自分のペースで活動意欲を喚起できるよう支援しており、欄には入居者がすぐに取り出せるよう、さりげなく道具や材料(毛糸・色鉛筆・歌詞等)が置かれている。自ら菊を栽培し、菊花展を開催しようという計画も出来ている。 ・職員は、優しく穏やかな態度で入居者と接しており、入居者と向き合い、互いに支え、学ぶ姿勢で入居者との関わりを深め、入居者が安心感を抱き、落ち着いて過ごせる場作りに取り組んでいる。 ・同一敷地内にある他の施設とも緊密な連携を図っており、交流の機会も多く、緊急時の協力体制も確立している。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物支援	○	
23	認知症の人の変容に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) ・入居者個々の長い人生経験を生かし、本人がやりたいと思うこと・好むものについては積極的に支援し、その力と経験を尊重して生かすように支援している。また、体力・気力の弱体等による能力低下に配慮した対応を心がけている。 ・入居者の趣味の編み物や生け花、貼り絵等を「落合まちかど展覧会」を利用して発表し、目的や生き甲斐を持って生活できるように支援している。 ・プライバシー保護マニュアルや、プライバシーポリシー・守秘義務に関するガイドラインを設け、実習生・ボランティア・見学者に対しても徹底し、入居者・家族のプライバシーを保護している。また、入居者が一人で落ち着いて過ごせる室内の環境整備にも努めている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) ・「ふれあいを心ゆたかに大切に」・職場は明るく清潔に・仕事は目くばり 気くばり 心くばり 即対応」をモットーとし、職員の資質向上に努めてサービス機能の拡充を図り、入居者に「良かった」と言ってもらえるサービスの提供に努力している。 ・気づくと何かが変わると考え、「気づきシート」を作成して気づいたことをその場で記入している。また、新人職員には、認知症に対する認識を深めるためOJTも行き、介護技術のレベルアップとサービスの向上に向けて日常的に取り組んでいる。 ・入居者の個人に関する書類は、事務所内で保管して管理している。また、薬品・洗剤等も事務所で保管し、入居者の安全確保に努めている。 ・事故報告書と共に「ヒヤリ・ハット・ほっと報告書」を作成し、内容・原因・今後の対策を記録し、翌日までに対策を検討して再発防止に努力している。 ・防災管理規定を定め、消防活動及び地震対策における、指揮・通報・消火・避難誘導等の担当者を決めている。年2回、地元消防団の協力も得て、防災訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行い、入居者及び職員の安全を図っている。		